

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19100010	研究期間	平成19年度～平成24年度
研究課題名	エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究	研究代表者 (所属・職)	吉村 作治（早稲田大学・理工学術院・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、メンフィス・ネクロポリス遺跡の整備計画を策定することを目的としている。域内にあるアブ・シール南丘陵遺跡とダハシュール北遺跡の発掘調査では大きな成果を挙げているが、目標とする整備計画策定には今後一層の努力が必要である。

研究代表者は計画を変更し、上記二つの遺跡をモデルケースとして今後の研究を進めたいとしている。世界遺産でもある遺跡の整備計画の策定には、遺跡保存地区とそれを守るための緩衝地帯の設定など広域的な視点が欠かせないので、GISを用いた現状調査データベースの構築に力を入れ、全体のプランが早く明確になるよう取り組むことを期待する。

今後は、エジプト政府や各国調査団の意見も聞いてメンフィス・ネクロポリス全域の遺跡保存につながる遺跡整備計画を策定し、基盤研究（S）に相応しい学術上の成果を上げることを大いに期待する。

【平成25年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果と比べ、進展した研究成果であった。
A	本研究は、ルクソール地域に比べて遺跡整備計画の作成が立ち遅れていたメンフィス・ネクロポリス地域の遺跡整備計画を策定することを目的としている。当初、ギザ、アブ・シール、サッカラ、ダハシュールの4地区に分けて調査を年度ごとに行うことになっていたが、外国調査隊の調査権などの問題から、アブ・シール南丘陵遺跡、ダハシュール北遺跡について機材を集中的に投入しての調査を実施した。また、GISによって広域的視野に立って遺跡の現状を可視化するなど、成果が上がっている。当初の目的はメンフィス・ネクロポリスの全体的な遺跡整備計画の策定であるが、両遺跡をモデルケースとして、汎用的な遺跡整備計画を策定した。さらに各地域の遺跡群の置かれた状況、特性にあった遺跡整備計画の方向を示しており、本研究の目的はほぼ達成している。